



AIPs

特許文書生成・ローカルLLM

**I.B. RESEARCH**

お問い合わせ 0120-51-9171
info@ibr.co.jp

Wordメニューの[作成支援]からスタート

ファイル ホーム 挿入 描画 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 書式整形 **作成支援** チェック支援 私文書 ヘルプ 撰写支援 検査支援

請求項→手段... フォームDB 一括 名称・背景 図面説明 要約書 項番挿入 CLAIM UP 名称挿集 名称を元に符号 文書DB 明細書 請求項語句検索 請求項1 全案出結果 範囲指定 **生成AI** 予測例文

① 本ソフトがインストールされると、Wordメニューに[作成支援]タブが表示されるのでクリック

② [生成AI]をクリックすると、本ソフト「AIPs」が起動

【書類名】特許請求の範囲
【請求項1】
非磁性支持体と、強磁性粉末を含む磁性層と、を有する磁気テープであって、
前記磁性層の面内方向について測定される屈折率 n_x と前記磁性層の厚み方向について

モデル(エンジン)をロード

AIPs 未ロード・空き7.6GB **ロード** 白紙化 新規案件 100% + 終了

チャット リクエスト カルテ ヒヤリング 請求項生成 実施形態生成

③ クリック

最初はメモリ容量を多く必要とするため、他のアプリは一旦OFFにして下さい。

AIPs モデルをロードしました 閉じる ロード 白紙化 新規案件

チャット リクエスト カルテ ヒヤリング 請求項生成 実施形態生成

先にモデルをロードしてください (送信は0)

ビギナー向け操作方法

AIPs 未ロード・空き7.6GB 注釈 アンロード 白紙化 新規案件 100% + 終了

チャット リクエスト カルテ ヒヤリング 請求項生成 実施形態生成

① [チャット]はQ&A (ビギナー向け)

② 各種質問を入力すると、AI がその場で返答

特許出願をしたいが、どのように申請文書を作ったら良いか教えて。

あなた 特許出願をしたいが、どのように申請文書を作ったら良いか教えて。

モデル

特許出願の申請文書作成についてですね。承知いたしました。
特許出願に必要な書類はいくつかあり、それぞれに定められた形式や記載すべき内容がありますので、全体像を把握しながら進めていくことが重要です。どのような発明をどのように保護したいのかによっても必要な準備が変わってきますが、一般的な流れと主要な構成要素についてご説明しますね。

1. 特許出願の基本的な流れ (概要)

特許行に出願する際、主に以下のステップを踏みます。

- 【最も重要】発明内容を明確化し、文書化する：どのような技術的課題があり、それに対してあなたの発明がどのように解決しているのかを具体的に記述します。
- 出願書類を作成・準備する：特許請求の範囲、明細書、図面などを作成します。
- 審査請求を行う (※重要)：出願後、一定期間内に「審査請求」をしないと権利化されません。(これは日本の制度上の重要なポイントです。)

2. 主要な申請文書

メッセージを入力 (Ctrl+Enterで送信)

文書生成方法①[カルテ作成]

AI Ps

ロード済み・空き 1.0GB 危険

■ アンロード 白紙化 新規案件 110% + 終了

チャット リクエスト カルテ ヒヤリング 請求項生成 実施形態生成

画面は「請求項生成」「実施形態生成」タブの画面トレイから添付できます（生成で使われます）。

保存したカルテを開く （ヒヤリングをスキップして編集・生成から再開）

ヒヤリング 0/8

AI

どんな発明か、ざっくり教えてください。

① 生成は[カルテ]からSTART

本発明は、手に持って使用する携帯型扇風機のハンディファンに関する。

スキップ

回答 (Ctrl+Enter)

AI Ps

ロード済み・空き 2.7GB 注意

■ アンロード 白紙化 新規案件 110% + 終了

チャット リクエスト カルテ ヒヤリング 請求項生成 実施形態生成

画面は「請求項生成」「実施形態生成」タブの画面トレイから添付できます（生成で使われます）。

保存したカルテを開く （ヒヤリングをスキップして編集・生成から再開）

ヒヤリング 1/8

AI

どんな発明か、ざっくり教えてください。

発明者

本発明は、手に持って使用する携帯型扇風機のハンディファンに関する。

③ 次に課題（従来の課題）を回答

AI

解決したい課題を教えてください。

④ 課題以外はスキップでもOK

本発明は、手に持って使用する携帯型扇風機のハンディファンに関する。

スキップ

回答 (Ctrl+Enter)

従来、気温が高い環境で使用すると、熱風がハンディファンより吹き出し、冷却効果があまりなかったという問題があった。さらに、ハンディファンに貯水部を設け、水をその貯めて、ミスト状に風と共に送風するタイプもあったが、操作が面倒で、貯水部から上手く水を吸い上げることが出来ず、冷却効果を十分得られなかったものもあった。本発明では、操作性も簡単で、常時水を霧状に風と共に送風でき、冷却効果を長く持たせたハンディファンを提供することが出来る。

AI Ps

ロード済み・空き 3.2GB 注意

■ アンロード 白紙化 新規案件 110% + 終了

修正

AI

本発明の方式による効果・メリットを教えてください。

発明者

(スキップ)

修正

AI

主要な構成要素を挙げてください。

発明者

(スキップ)

修正

⑤ 請求項は特に重要な点を入力

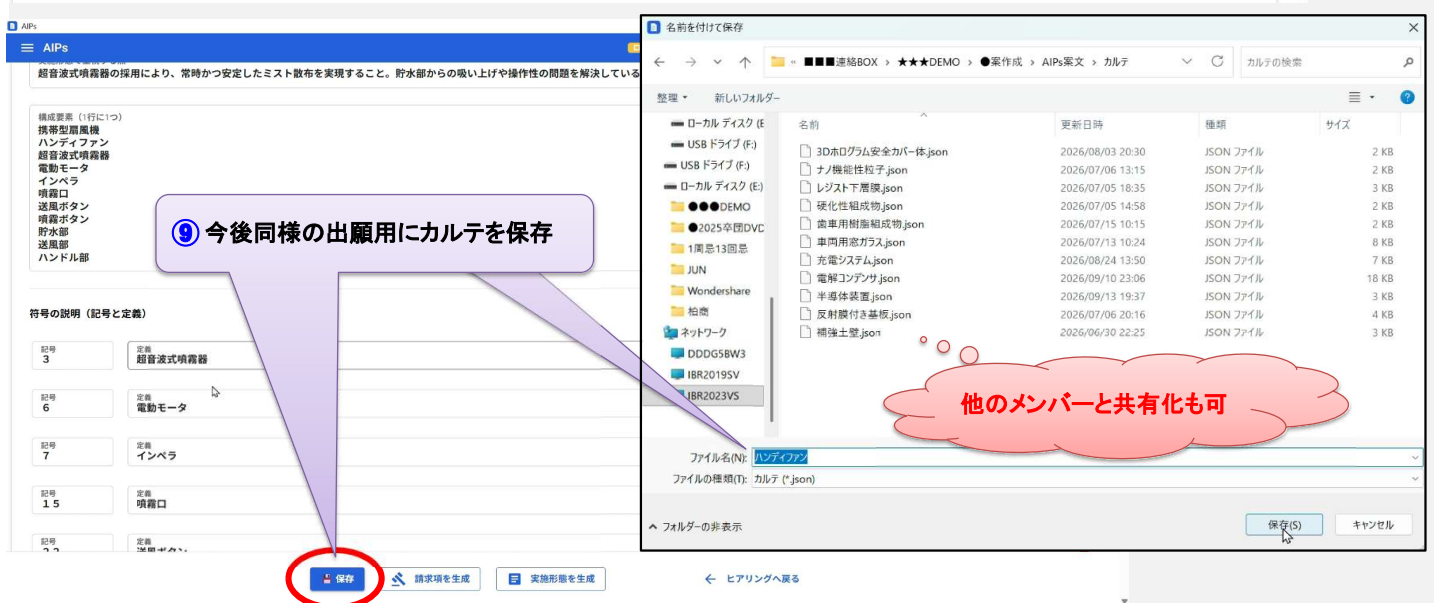
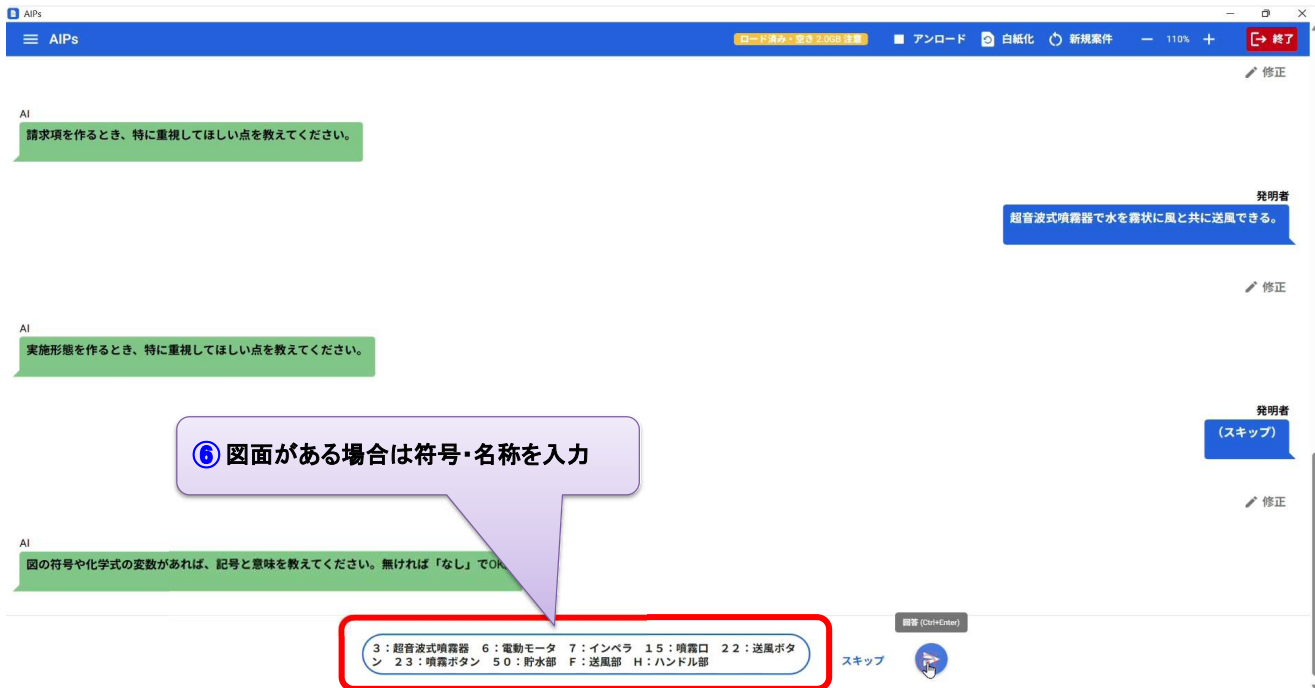
AI

請求項を作るとき、特に重視してほしい点を教えてください。

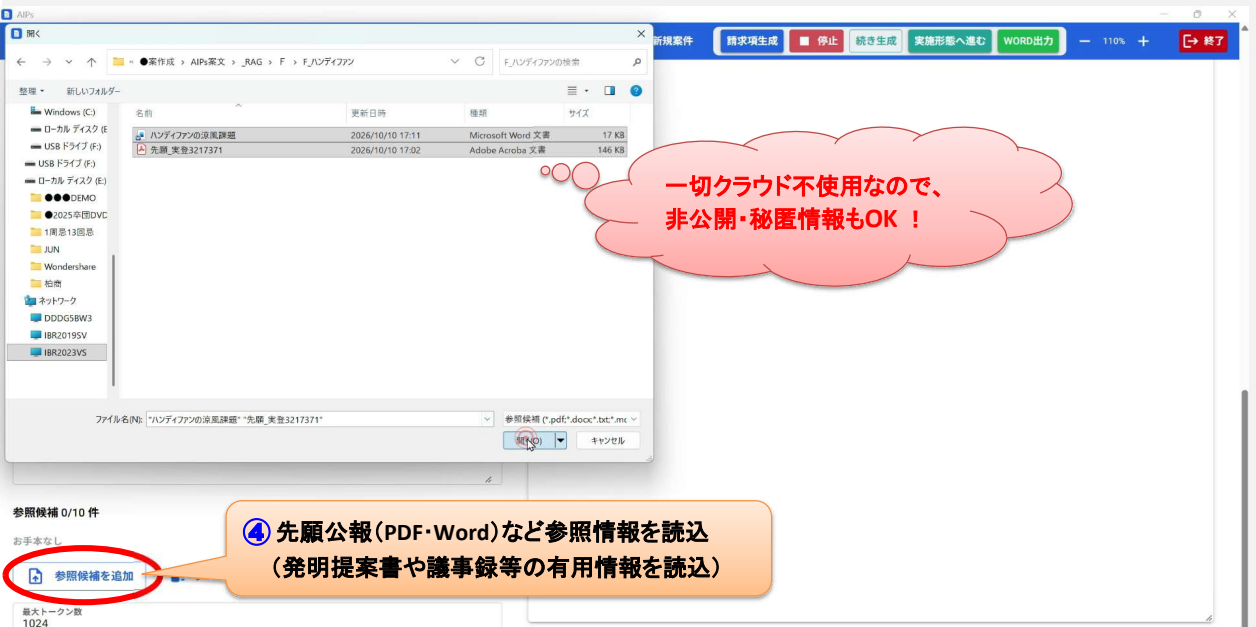
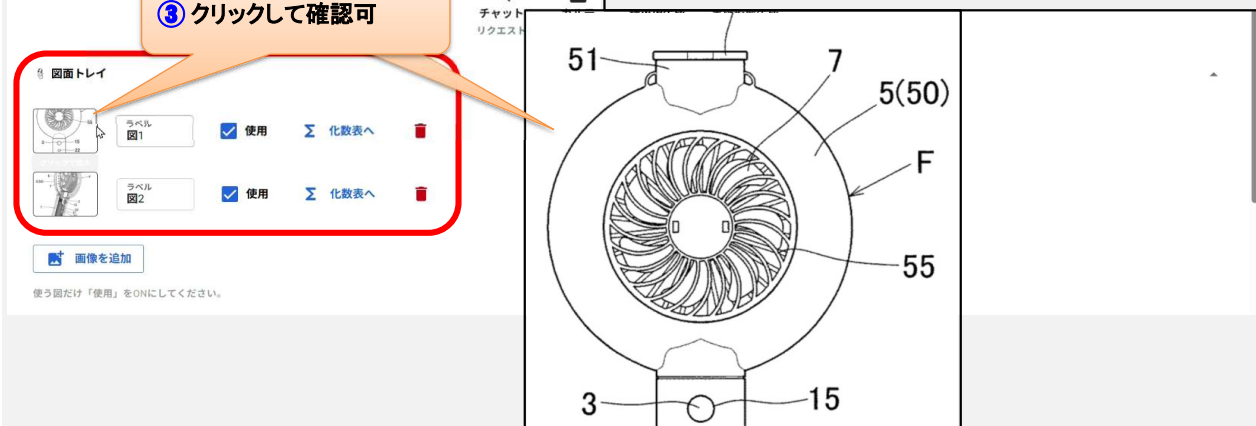
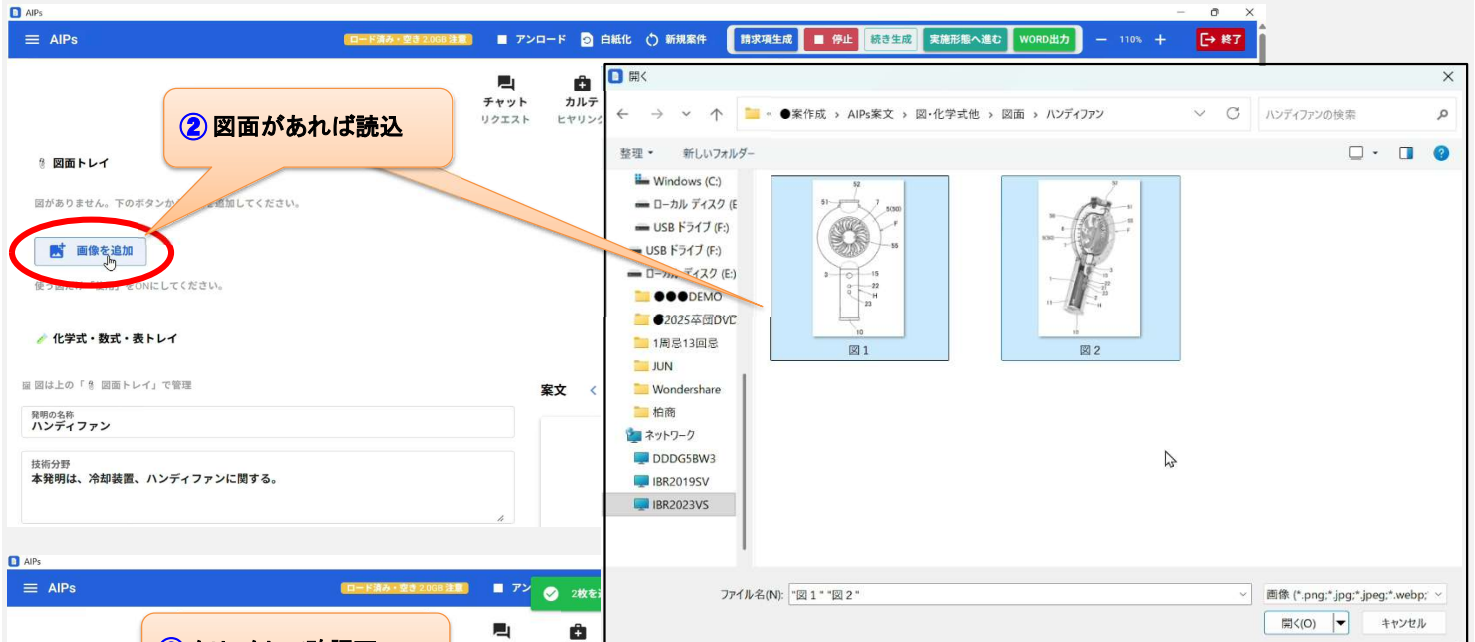
超音波式噴霧器で水を霧状に風と共に送風できる。

スキップ

回答 (Ctrl+Enter)



文書生成方法②[請求項生成]





POINT: 生成文の修正方法

元へ戻す(undo)およびやり直し(redo)可能

⑥ 生成内容に相違がある場合、ドラッグor右クリックで[段落やり直し]を選択

⑦ 新たなプロンプトで修正指示

⑧ クリック

⑨ AIが参照情報内の文献をサーチ(有用情報が無ければ⑩へ進む)

⑩ クリック

段落やり直し

新たなプロンプトには1個ずつ生成を指示してください。

対象段落

【請求項2】
請求項1に記載の携帯型扇風機において、送風ボタンと噴霧ボタンを備えることを特徴とする携帯型扇風機。

【請求項3】
請求項1に記載の携帯型扇風機において、ハンドル部を備えることを特徴とする携帯型扇風機。

修正指示
請求項2と請求項3を修正して、超音波式噴霧器が貯水部の下側に設けられていることを説明して。

プリセット

挿入 保存 削除

キャンセル 生成

段落やり直し

選択 0件・0字

先願_実装3217371.pdf

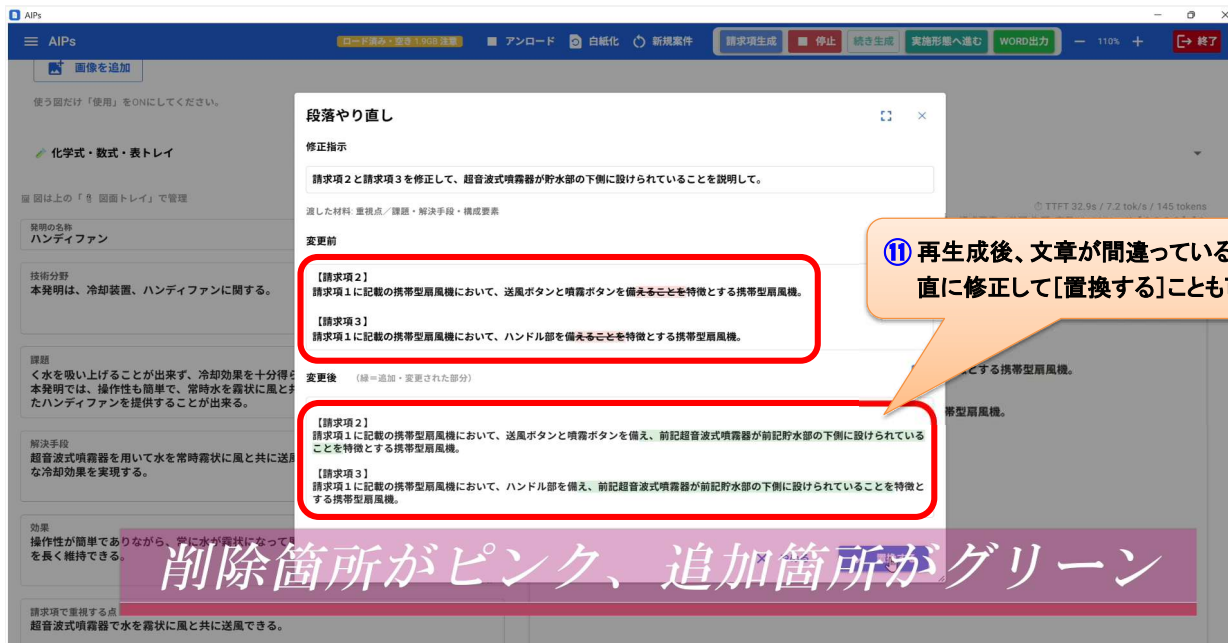
【請求項2】
前記本体部は、第一本体部分と、第一本体部分よりも横断面における径が大きく、かつ第一本体部分よりも他方側に位置する第二本体部分とを有し、前記押圧部が第二本体部分に設けられる請求項1に記載の送風機。

【請求項3】
前記本体部の側方から見たときに前記ファンの方側の縁は前記傾斜面と略平行になっている請求項1又は2のいずれかに記載の送風機。

【0017】
図5に示すように、本体部10内には水等の液体を貯留する貯留部80が設けられてもよい。貯留部80内には、貯留部80内の水等の液体を押圧部40が押圧されることで吸引する吸引部70の他方側の一部(底面側の一部)が設けられてもよい。吸引部70の一方側端部(頂面側端部)に噴霧口71が設けられている。図4に示すように、本体部10の側面は透明窓15を有し、当該透明窓15を介して貯留部80に貯留されている水等の液体の量を確認できるようになってよい。

【0002】
従来から、持ち運び式の送風機が知られている。このような持ち運び式の送風機としては、例えば特許文献1に開示されているものを挙げることができる。この持ち運び式の送風機は、筐体と、筐体の正面に設けられて、外気を取り込むための吸引口と、筐体の上部に設けられて、吸引口から取り込まれた外気を前記筐体の外方へ送るための送風口と、筐体内に設けられて、回転することで、吸引口から外気を取り込むとともに送風口から筐体の外方へ外気を送り出す複数の羽根を有する回転体と、を有している。

戻る この選択で生成



⑪ 再生成後、文章が間違っている場合、直に修正して[置換する]ことも可

削除箇所がピンク、追加箇所がグリーン

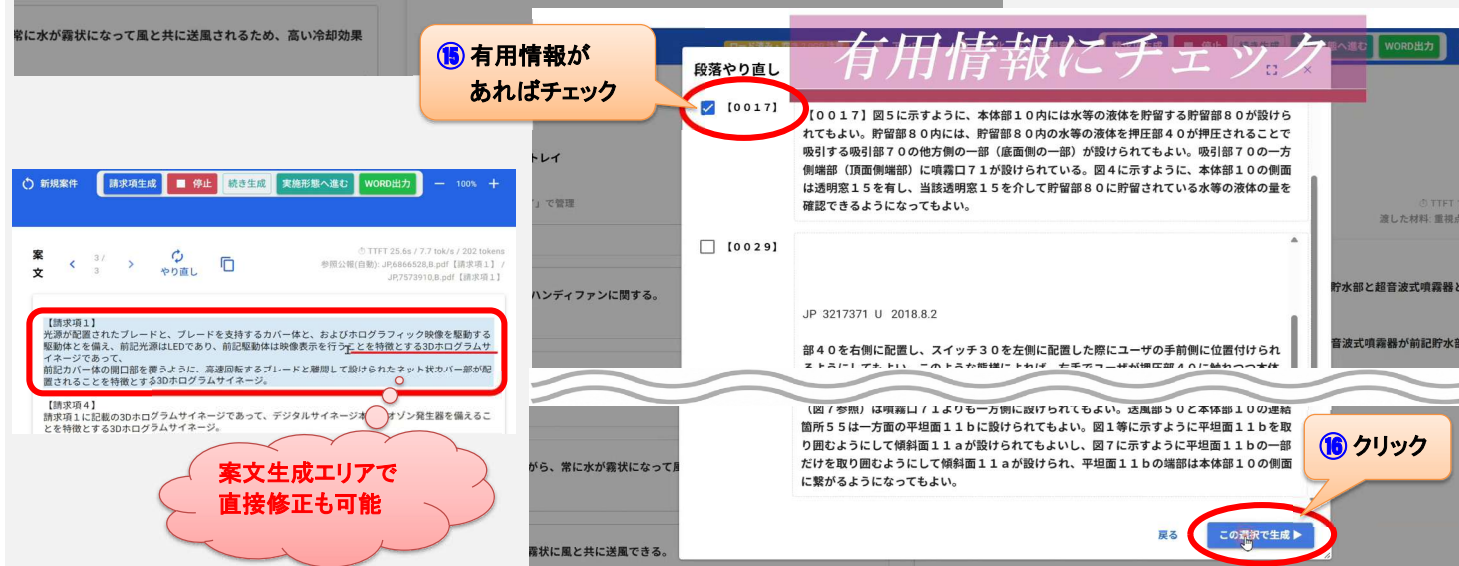


⑫ 再生成後、文章がまだ間違っている場合、ドラッグor右クリックで[段落やり直し]を選択



⑬ 新たなプロンプトで修正指示

⑭ クリック



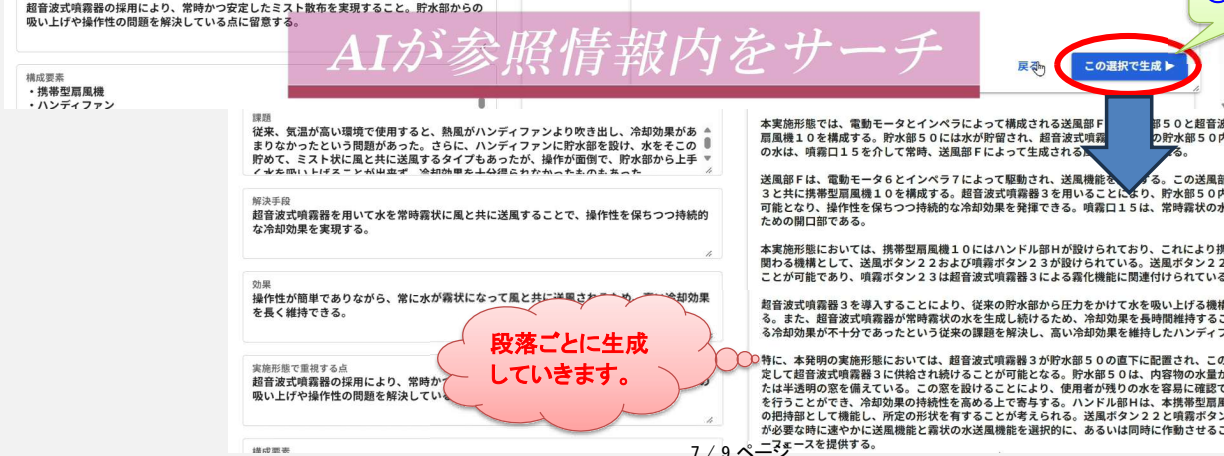
⑮ 有用情報があればチェック

有用情報にチェック

⑯ クリック

案文生成エリアで直接修正も可能

文書生成方法③[実施形態生成]



AI Ps

ロード済み・空き 2.0GB 注意

■ アンロード

白紙化

新規案件

実施形態生成

停止

続き生成

8 クリック

終了

本発明は、冷却装置、ハンディファンに関する。

POINT

『AIPs』の特徴は、変形例（別案）をたくさん生成できるところにあります。

効果
操作性が簡単でありながら、常に水が霧状になって風と共に送風されるため、高い冷却効果を長く維持できる。

実施形態で重視する点
超音波式噴霧器の採用により、常時かつ安定したミスト散布を実現すること、吸い上げや操作性の問題を解決している点。

構成要素
・携帯型扇風機
・ハンディファン
・超音波式噴霧器
・電動モーター

特許請求の範囲
【請求項1】
携帯型扇風機であって、電動モータとインペラとを備え、送風部として構成され、貯水部と超音波式噴霧器とを設け、噴霧口から霧状の水を常時風と共に送風する、ことを特徴とする携帯型扇風機。

【請求項2】

本実施形態において、送風部として、送風機構と、送風機構を駆動する電動モータとを備え、送風機構は、送風機構を構成する送風部Fが、貯水部50と超音波式噴霧器3とを一体的に含む携帯型扇風機10を構成する。超音波式噴霧器3を用いることにより、貯水部50内の水を常に霧状に変換することができ、操作性を保ちつつ持続的な冷却効果を実現できる。噴霧口15は、常時霧状の水が送風部Fの風に乗って送出されるための開口部である。

続きを生成

新たなプロンプトには1個ずつ生成を指示してください。

続きへの指示（任意）

プリセット

この段落の続きとして、光...

変形例を続けて生成して。

新たな別のバリエーション...

9 プロンプト文を選択可

10 クリック

続きを生成 ▶

過去のプロンプト文を保存し利用

保存とクリア

AI Ps

ロード済み・空き 2.0GB 注意

■ アンロード

白紙化

新規案件

請求項生成

停止

続き生成

実施形態へ進む

WORD出力

チャット

カルテ

リクエスト

ヒヤリング

図は「請求項生成」「実施形態生成」タブの図面トレイから添付できます（生成で使われます）。

発明カルテ（その場で編集できます）

別のカルテを開く

発明の名称
超音波式噴霧器を備えた携帯型扇風機

解決手段
超音波式噴霧器を用いて水を常時霧状に風と共に送風することで、操作性を保ちつつ持続的な冷却効果を実現する。

効果
操作性が簡単でありながら、常に水が霧状になって風と共に送風されるため、高い冷却効果を長く維持できる。

請求項で重視する点
超音波式噴霧器で水を霧状に風と共に送風できる。

保存

請求項を生成

実施形態を生成

ヒヤリングへ戻る

カルテ・請求項・実施形態画面で生成・編集した文章は、[カルテ]画面下部の[保存]ボタンで保存可
※画像図面や参照情報（先願公報等）は保存されません。

AI Ps

ロード済み・空き 1.9GB 注意

■ アンロード

白紙化

新規案件

請求項生成

停止

続き生成

実施形態へ進む

WORD出力

画像を追加

使う図だけ「使用」をONにしてください。

化学式・数式・表トレイ

図面は上の「図面トレイ」で管理

発明の名称
ハンディファン

技術分野
本発明は、冷却装置、ハンディファンに関する。

課題
く水を吸い上げることが出来ず、冷却効果を十分得られなかったものもあった。本発明では、操作性も簡単で、常時水を霧状に風と共に送風でき、冷却効果を長く持たせたハンディファンを提供することが出来る。

案文

2 / 2

やり直し

TTFT

渡した材料: 重視

【請求項1】
携帯型扇風機であって、電動モータとインペラとを備え、送風部として構成され、貯水部と超音波式噴霧器とを設け、噴霧口から霧状の水を常時風と共に送風する、ことを特徴とする携帯型扇風機。

【請求項2】
請求項1に記載の携帯型扇風機において、送風ボタンと噴霧ボタンを備え、前記超音波式噴霧器が前記貯水部にあることを特徴とする携帯型扇風機。

【請求項3】
請求項1に記載の携帯型扇風機において、ハンドル部を備え、前記超音波式噴霧器が前記貯水部の下側に設けられることを特徴とする携帯型扇風機。

請求項・実施形態の案文生成画面内の入力内容を全てクリア

カルテを含む全画面の入力内容をクリア

Wordに貼付けて確認・修正

① 全生成文をWord出力可

出願フォームをお持ちであれば、「請求項」と「実施形態」それぞれをコピー＆ペーストしてください。

② Word内[作成支援]タブ→[その他]にてフォーム整形

③ 全文 or 選択範囲から英数字を抽出し一括修正

④ 符号、記号、数字等の半角を全角に一括修正

⑤ 全文 or 選択範囲から符号・名称の一括修正可

**【AIPs】+【特許ストーリー】の組み合わせで、時短・高精度・効率的に書類作成が可能！
更に同シリーズ「チェッカー版」で36条違反もチェック可！**

POINT